

11 尿路出血で漢方薬が有効であった2例

市立八幡浜総合病院 泌尿器科¹⁾、
愛媛大学附属病院 泌尿器科²⁾

寺下 誠人¹⁾、小川 智子¹⁾、武田 肇¹⁾、
杉原 直哉²⁾、澤田 貴虎²⁾、佐伯 佳央理²⁾、
角田 俊雄²⁾、西村 謙一²⁾、福本 哲也²⁾、
三浦 徳宣²⁾、菊川 忠彦²⁾、雑賀 隆史²⁾

【緒言】骨盤内悪性腫瘍に対する放射線治療による副作用として血尿が知られており、しばしば難治性である。難治性の血尿に対する治療法として、膀胱内薬物投与や塞栓療法、経尿道的電気凝固術(TUC)や高気圧酸素療法があるが、それぞれ侵襲や設備が必要となる。今回は放射線治療後の尿路出血に対し、芎帰膠艾湯の投与により肉眼的血尿の改善が見られた2症例を報告する。

【症例1】80代男性。既往として、20代で血友病Aを指摘されている。2012年に前立腺癌に対し強度変調放射線療法(IMRT)を施行した。2023年6月に血塊を伴う肉眼的血尿から、膀胱タンポナーデとなり当科入院した。空気膀胱鏡にて膀胱内に腫瘍性病変なく、前立腺尿道部からの出血があった。退院後も間欠的な血尿が継続し、保存的治療にて1度は改善したものの、同年8月に膀胱タンポナーデで再度当院に入院した。止血効果を期待し芎帰膠艾湯を開始した。その後の経過観察において、入院加療が必要となる肉眼的血尿は認めることなく経過している。

【症例2】70代女性。2023年7月に交通外傷による入院加療中にバルン留置後の血尿・膀胱タンポナーデにより当院へ紹介された。20年ほど前に子宮頸癌に対し放射線治療歴があり、膀胱鏡の所見から放射線性膀胱炎と診断した。入院後TUCを行い、Hb5.5となっていたためRCC輸血を行った。血尿が落ち着き転院したが、10日後に再度血尿再燃し、緊急でTUCとRCC輸血し、軽快後転院となった。その後11月に当院再入院し、肉眼的血尿が見られたため、芎帰膠艾湯を開始した。退院時は肉眼的血尿改善しており、その後の経過でも入院加療が必要になるような肉眼的血尿はなく経過している。

【考察】芎帰膠艾湯は当帰、川芎、芍薬、地黄、阿膠、艾葉、甘草の7種の生薬からなる。貧血症状の改善・止血作用・鎮痛作用があるとされ、過去に放射線性膀胱炎、不正性器出血に対して有用であったという報告がある。本症例でも止血効果が得られており、治療に難渋する尿路出血の治療として有用と考える。